

# 公益社団法人日本薬剤学会 2017年度事業報告(案)

(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

## 公益目的事業1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発、研究の振興、調査研究並びに評価により、薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

### まえがき

今年度は公益社団法人としての責務を遂行するに当たり、上掲の「公益目的事業1」を着実に推進するための事業計画を立案し、理事会を中心としたガバナンス体制の下、着実に事業の運用を図った。また、健全な財務基盤の確保も円滑な事業運営の課題であるが、事業ごとに精査を行い、こちらも適正運用の達成に努めた。

### 会長

- 1 APSTJ 2025 推進事業
  - 理事会主導により、日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2025”の検討・策定を行った。
  - 日本学会議が大型研究のために策定しているマスタープランの推進についての検討を行った。
  - 国内外の関連学協会との交流事業を推進した。
- 2 国際標準医薬分業推進事業
  - 国際標準的な医薬分業(完全分業あるいは強制分業)への移行について、必要な情報を整理しつつ、実施に向けての戦略を立案し、関連団体と連携しながら行政への働きかけを推進した。

### 副会長総務担当理事

- 1 学会賞等表彰事業

1.1 薬師メダル	受賞者なし
1.2 学会賞	受賞者 佐々木 均
1.3 功績賞	受賞者 金尾 義治
1.4 奨励賞	受賞者 白坂 善之, 東 颯二郎
1.5 タケル&アヤ・ヒグチ記念荣誉講演賞	---当期設定なし---
1.6 タケル&アヤ・ヒグチ記念賞	受賞者 山本 昌
1.7 永井記念国際女性科学者賞	受賞者 Jennifer Dressman
1.8 創剤特別賞	受賞者なし
1.9 優秀論文賞	受賞者 Takuya Ishii, Naoki Kobayashi, Atsushi Maeda, Hiromu Kondo, Kazuhiro Sako, Shizuo Yamada, Yoshiyuki Kagawa Shunichi Utsumi, Yasuko Obata, Kozo Takayama
1.9 製剤の達人称号	受賞者 箱守正志, 檜山行雄, 夏山晋, 須藤浩孝, 川崎 誠, 大島英彦, 馬場一彦, 森島健司, 丸尾 享
1.10 国際フェロー称号	受賞者 Jennifer Dressman
1.11 「薬と健康の週間」懸賞論文	第1席 村田俊介
- 2 創剤開発・研究賞表彰事業

2.1 旭化成創剤開発技術賞	受賞者なし
2.2 旭化成創剤研究奨励賞	受賞者 渡部 一宏, 酒井 憲一

### 渉外担当理事

- 1 学生主催シンポジウム事業

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と、口演能力や講演会運営スキルを涵養することを趣旨として、年会において学生主催シンポジウム SNPEE 2017 を開催した。

テーマ “自らを伝え、共に高め合う”

特別講演「Glocal Pharmaceutics ～那由多の可能性を世界へ～」立川正憲先生(東北大学大学院薬学研究科准教授) 2017年5月13日、大宮ソニックシティ

## 2 広報委員会事業

学会ウェブサイトの企画運営等を通して本学会の活動の広報を行うとともに、会員の拡大のために関連諸領域の研究者への本学会のアピールを図った。また、オンライン化される「薬剤学」誌のウェブサイトからの情報発信を編集委員会と協力しながら行った。

## 3 医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し、専門の研究者・技術者が協議し、本学会会員に情報発信を行うことを目的に、年会において「医薬品包装シンポジウム」を開催した。

「医療環境変化に対応した医薬品の容器・包装 ～在宅医療、抗体医薬品を中心に～」

2017年5月13日

大宮ソニックシティ

## 4 教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について、専門委員が協議して提言を行う他、年会においてはミシガン大学薬学部から爪康浩先生をお招きして以下のとおり薬学教育シンポジウムを開催した。

「日本における Pharm D 制度の推進」

2017年5月13日

大宮ソニックシティ

## 国際連携担当理事

### 1 英語セミナー事業

国際共通言語である英語での討議能力を養うため、訪日した海外研究者・国内の研究者等を講師として招聘し、講義・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar を日本の各地区で実施した。

#### 1.1 第1回英語セミナー

2017年6月23日

北海道大学

48名参加

#### 1.2 第2回英語セミナー

2017年9月28日

金沢大学

59名参加

#### 1.3 第3回英語セミナー

2017年12月22日

愛知学院大学

73名参加

### 2 国際学会等協力事業

#### - FIP (国際薬学連合)

FIP の Predominantly Scientific Member Organization として、Council Meeting (ハーグ、オランダ、2月) で重要事項を審議した。FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (PSWC, ストックホルム、スウェーデン、5月21-25日) および FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences (ソウル、韓国、9月10-14日) の Section/SIG にメンバーを派遣した。BPS の諸活動に積極的に参画した。Board of Pharmaceutical Sciences 会議 (BPS Meeting, アムステルダム、オランダ) に理事を派遣した。

#### - AFPS (アジア薬科学連合)

Asian Federation of Pharmaceutical Sciences (AFPS) の Member of Organization として、Executive Committee に役員を派遣した。2017 AFPS Conference (廈門、中国、11月21-23日) に理事を派遣するなど、アジア地域における薬科学研究の発展に寄与した。

#### - 第2回日韓若手薬剤学研究者ワークショップの共催開催 (ソウル、韓国、2018年7月10-11日予定) を企画した。

## 機関誌担当理事

### 1 「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と「薬と健康の週間」懸賞論文を選考した。「薬剤学」のオンライン化に伴い、原著論文については J-STAGE での Web 公開と同時に、他の記事は Web 公開の半年後から全情報を公開することとし、「薬剤学」の引用率向上に努めてきた。また、オンライン化による会員の感想・意見をアンケート方式で収集した。

### 2 投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文を審査した。また、優秀論文賞の選考を行い、下記の2件を選出した。

Takuya Ishii, Naoki Kobayashi, Atsushi Maeda, Hiromu, Kondo, Kazuhiro Sako, Shizuo Yamada, Yoshiyuki Kagawa. Absorption improvement of sepantronium bromide (YM155) by aminoalkyl methacrylate copolymers in in situ intestinal tracts of mice. J. Drug. Deliv. Sci. Tech., 27, 1-8 (2015).

Shunichi Utsumi, Yasuko Obata, Kozo Takayama, Thermal behavior and functional group interaction of lipids extracted from the stratum corneum. J. Drug. Deliv. Sci. Tech., 35, 200-206 (2016).

### 3 学会誌出版事業

### 3.1 機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行した（78巻1号のみ冊子で発行，他はweb版のみ発行）。

- Vol. 77 No. 3 2017年5月1日発行
- Vol. 77 No. 4 2017年7月1日発行
- Vol. 77 No. 5 2017年9月1日発行
- Vol. 77 No. 6 2017年11月1日発行
- Vol. 78 No. 1 2018年1月1日発行
- Vol. 78 No. 2 2018年3月1日発行

英文論文についても積極的な投稿促進を図った。

### 3.2 公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

昨年度構築した編集委員新体制にてJDDSTの購読促進を図った。

## 書籍担当理事

### 1 出版委員会事業

本学会の事業に関連する書籍の企画編集を行った。

- 1.1 製剤技術の伝承講習会の内容 10～20回をまとめた製剤の達人シリーズの続編「製剤の達人による製剤技術の伝承 製剤設計・製造技術の新たな潮流」（監修：岡田 弘晃，吉野廣祐）を発刊した（2017.5）。
- 1.2 薬剤学会フォーカスグループ（FG）の活動をベースとしたシリーズ書籍として「固体医薬品の物性評価 2018（仮）」（監修：日本薬剤学会 物性 FG）および「医薬品開発の現状と展望—前臨床開発 FG x 経口吸収 FG 合同合宿討論会記念出版（仮）」（監修：日本薬剤学会 前臨床開発/経口吸収 FG）の2018年度中の発刊に向けて準備を進めた。

## 技術担当理事

### 1 製剤技術伝承講習会事業

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により，滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため，座学・実習の講習会を企画運営した。今期は以下のとおり開催した。

- 1.1 第21回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会  
「経口製剤の製剤設計と製造法」 22名参加  
2017年6月15-16日，7月13-14日 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス
- 1.2 第13回製剤技術伝承実習講習会  
「～難溶性薬物の製剤設計～」 11名参加  
2017年8月30-31日 大川原化工機株式会社 粉体技術研究所  
／静岡県立大学薬学部 創剤工学講座
- 1.3 第14回製剤技術伝承実習講習会  
「克服すべき問題を抱えた化合物の処方最適化ストラテジー」 24名参加  
2017年8月31-9月1日 星薬科大学
- 1.4 第22回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会  
「非経口製剤の製剤設計と製造法」 19名参加  
2018年1月11-12日，2月8-9日 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス

### 2 製剤技師認定事業

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究・開発・製造担当で，日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規・制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する。今年度も本認定試験の社会的な認知度とステータスの向上を図るため，様々な活動を展開した。今期の開催と認定者は以下のとおり。

- 2.1 第8回製剤技師認定試験 49名受験  
2017年10月21日 慶應義塾大学三田キャンパス／神戸薬科大学
- 2.2 第8回製剤技師認定者（以下31名、合計認定者数186名）

荒川貞弘，伊林裕司，遠藤紀真，大越敬之，奥村厚志，長田京子，織田将史，金子 靖，國方俊暢，小走裕太，鹿村悠子，下鳥政貴，鈴木悠馬，砂村隆士，園家史朗，高垣恵介，玉井琢磨，千々石雅志，豊永 翔，中道克樹，中村克也，西村麻里，根建祐一，野嶋秀明，浜田正隆，原科建依，深谷優介，藤田樹生，森 泰裕，森 裕一郎，吉田直樹

## 製剤・創剤セミナー担当理事

### 1 製剤・創剤セミナー事業

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者・学生が一堂に集い、医療・薬剤学に関し、サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤・創剤セミナー」を以下のとおり開催した。

#### 1.1 第42回製剤・創剤セミナー

「究極医療（プレジジョンメディシン）への製剤・創剤の挑戦」 135名参加  
2017年8月24-25日 淡路夢舞台国際会議場・ウェスティンホテル淡路

## 公開市民講演会事業担当理事

### 1 公開市民講演会事業

一般市民を対象とした公開市民講演会を企画し、今期は以下のとおり開催した。

2017年9月25日 帝京大学 板橋キャンパス  
「シニア世代のくすりの使い方」 100名参加

## FG担当理事

### 1 FG統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として、事業・予算の管理を行い、各FGに対する助言やFG・理事会間のリエゾンを担当した。

日本薬剤学会の現状及びFG規約を各FGに周知する目的で、各FGリーダーを含めたFG統括委員会を年会期間中に開催した。事業・予算の管理のためのFG統括委員会はメール会議で対応した。

#### ・FG統括委員会

2017年5月13日（土） 大宮ソニックシティ（大宮市），参加者：21名

FG継続申請に関して、12FGは来年度も事業を継続すること、3FGが事業を終了することを委員会として確認した。

#### ・事業を終了するFG：がん治療，粉体プロセス，モデリング&シミュレーション

以下、各FGの活動報告概要を示す。

#### - 【経口吸収FG】

経口吸収に関わる生体膜機能，吸収機構，体内動態，製剤化や臨床開発に至るまでの幅広い問題を統合し，新たな経口吸収研究を開拓するため，以下の企画を実行した。本年度は，前臨床開発FGと合同とした。

#### ・前臨床開発/経口吸収フォーカスグループ合同合宿討論会

2017年12月7～8日（木，金） KKR熱海（熱海市），参加者：38名

#### - 【がん治療FG】

第26回日本医療薬学会年会のジョイントシンポジウム「抗がん剤による末梢神経障害：その対処法と最近の研究動向」において得たアンケート結果をもとに，臨床薬剤師への情報発信を行った。

#### ・第27回日本医療薬学会年会 ポスター発表「がん医療に従事する薬剤師が企業やアカデミアに求めるニーズについて～第26回日本医療薬学会年会におけるアンケート結果の解析～」

2017年11月3日 国立京都国際会館（京都市）

#### - 【経皮投与製剤FG】

医薬品，化粧品の処方設計，医療現場での評価など製剤のユーザビリティについて，多方面の参加者の討論を目的としたシンポジウムを開催した。

#### ・第9回経皮投与製剤FGシンポジウム 2017年11月28日（火）城西大学紀尾井町キャンパス，参加者：約160名

#### - 【経肺経鼻投与製剤FG】

本FGの活性化を図る方策について執行部で協議を重ねた。その結果，2018年度から執行部4名中2名を交代することになり，新執行部メンバー選考を行った。

#### - 【核酸・遺伝子医薬FG】

核酸医薬および遺伝子医薬に対するデリバリー製剤に関して以下の行事を開催した。また，微粒子製剤の物性測定方法の「標準化」に関して，微粒子製剤の粒子径測定に関する評価結果

を整理し、新たに各施設での測定について計画を進めた。

- ・日本薬剤学会第 32 年会 ラウンドテーブルセッション 2「核酸・遺伝子医薬の臨床応用に立ちあがる障壁について考える」(DDS 製剤臨床応用 FG と合同) 2017 年 5 月 12 日  
大宮ソニックシティ, 参加者約 150 名
- ・日本薬学会第 138 年会 シンポジウム S24「遺伝子・核酸医薬品およびその DDS 開発研究の課題を産官学で協力して考える」(DDS 製剤臨床応用 FG と合同) 2018 年 3 月 27 日  
ANA クラウンプラザホテル金沢, 参加者 250 名

#### 【薬物相互作用 FG】

薬物相互作用予測手法の問題点, 最新予測手法の医薬品開発への応用, 製薬企業での申請時における薬物相互作用に対する取り組みの実例に関して意見交換および議論を目的として, シンポジウムを開催した。また, 日本医療薬学会年会のシンポジウム終了後にアンケート調査を行った。

- ・第 27 回日本医療薬学会年会 日本薬剤学会薬物相互作用 FG 共催シンポジウム  
「臨床で生きる薬物相互作用の基礎的研究 ~基礎と臨床の共栄を目指して~」  
2017 年 11 月 3 日 幕張メッセ, 参加者約 300 名
- ・第 38 回日本臨床薬理学会学術総会 日本薬剤学会薬物相互作用 FG 共催シンポジウム  
「薬物間相互作用の予測に関する基礎から臨床への橋渡し」  
2017 年 12 月 9 日 パシフィコ横浜, 参加者約 300 名

#### 【医療 ZD と完全分業 FG】

薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し, そのリスク管理の医療における ZD (Zero Defect) が達成されるよう 医薬分業の理念 (医薬業の完全分離, 処方鑑査の徹底, 薬剤師 Ethics を高揚し薬剤師の質的向上) を基盤としたシステム・教育の構築を目指す討論を主に E-mail 討論により進めてきた。主たる実績として, 薬剤師宣言を公表した。

- ・「薬剤師宣言」を薬剤学会 HP 等に公表 2017 年 6 月 30 日

#### 【DDS 製剤臨床応用 FG】

核酸・遺伝子医薬 FG と共同で, 2 件のラウンドテーブル, シンポジウムをそれぞれのテーマで行った。また, 合宿討論会 (アルブミン製剤をメインテーマとし) シンポジウム他を開催した。

- ・日本薬剤学会第 32 年会ラウンドテーブル共催: 核酸・遺伝子医薬 FG の項参照
- ・第 7 回 DDS 製剤臨床応用 FG 合宿討論会 2017 年 10 月 13-14 日 帝京大学箱根セミナーハウス (神奈川), 参加者 25 名
- ・日本薬学会第 138 年会シンポジウム共催: 核酸・遺伝子医薬 FG の項参照
- ・日本薬学会第 138 年会シンポジウム: 「ナノ DDS 製剤の特性解析とその分析評価技術」2018 年 3 月 28 日 金沢市アートホール (石川), 参加者 約 50 名

#### 【個別化製剤 FG】

AMED の分担研究「小児医薬品の実用化に資するレギュラトリーサイエンス研究」(2016 年 8 月~2019 年 3 月, 代表: 中村秀文) を推進中で, それに関連したミーティングを行った。

- ・産学連携コンソーシアムキックオフミーティング (2017 年 4 月 19 日 18 名参加)
  - ・産学連携コンソーシアムミーティング (2017 年 10 月 2 日 12 名参加)
- 年会ならびに雑誌で活動の報告, また外部への広報を行った。
- ・個別化製剤フォーカスグループの活動について (薬剤学, 77 (2), 50-53 (2017))
  - ・第 32 年会 RTD 「最新の医療ニーズからの科学的課題の発掘」(約 100 名参加)
  - ・第 32 年会ランチョンセミナー「臨床薬剤現場研修」の紹介 (約 100 名参加)
  - ・「小児製剤の課題と解決に向けての挑戦」FG の紹介 (2017 年 9 月 9 日 第 23 回創剤フォーラムにて)

臨床薬剤現場研修を実施した。(2017 年 10~12 月, 5 日間, 11 名参加)

- ・第 2 回個別化製剤 FG 研究会を開催した。(2018 年 3 月 16 日, タワーホール船堀, 37 名参加)

#### 【物性 FG】

以下の行事を開催し, 情報発信を行った。また, 物性 FG 専用 HP を開設した。

URL: <http://bussei-FG.com/>

- ・日本薬剤学会第 32 年会ラウンドテーブル 3 「原薬と添加剤の複合体は, 原薬? 製剤?」

原薬と製剤の融合技術のレギュレーションー」2017年5月12日 大宮ソニックシティ, 参加者約130名

・物性フォーカスグループセミナー2017 「化学構造解析だけじゃもったいない! 医薬品開発へのNMRの応用」2017年8月4日 星薬科大学, 参加者95名 (アンケート結果 HP公開)

・第14回 製剤技術伝承実習講習会 共催2017年8月31日-9月1日 星薬科大学: 製剤技術伝承講習会事業の項参照

・「共結晶を含む医薬品のレギュレーションに関する考察と一提言ー共結晶は原薬か製剤中間体かー」医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス48(12)2017 掲載

・粉体プロセス/物性/製剤処方・プロセスの最適化検討 3FG 合同合宿討論会: 製剤処方・プロセスの最適化検討 FG の項参照

- **【製剤処方・プロセスの最適化検討 FG】**

委員会を開催するとともに, 7月~8月にかけて QbD に関するアンケート調査を実施し, その結果を2015年のアンケート調査結果とあわせて会誌にレポートとして投稿し (掲載は2018年度), PMDA (松田主任専門員) にも報告 (12/11) した. また, 講演会を主催した.

・委員会開催 6/29・9/27・11/10・1/10・3/7

・3FG 合同講演会 (主催) 「QbD に基づくプロセス開発~スケールアップ検討は必要か?~」2018年3月8日 星薬科大学, 参加者70名余

- **【臨床製剤 FG】**

日本薬剤学会の学術シンポジウムに加えて, 2つの他学会のシンポジウムを企画・立案し, 他学会会員と討論・意見交換を行った. 加えて, 臨床製剤セミナーを開催した.

・日本薬剤学会 第32年会の学術シンポジウム「院内製剤から臨床製剤への進化ー効果的な薬物治療を実践するためにー」, 2017年5月11日 (木) ~13日 (土), 大宮, 参加者約100名

・第11回 日本緩和医療薬学会 公開シンポジウム「薬剤学と緩和医療との融合ー Pharmacist-Scientist が実践する緩和医療への薬剤学的アプローチ」, 2017年6月2日 (金) ~4日 (日), 札幌, 参加者約50名

・日本薬学会 第138年会 シンポジウム「実例で考える臨床製剤開発のための PDCA サイクル」, 2018年3月25日 (日) ~26日 (水), 金沢, 参加者約50名

・第1回 臨床製剤セミナー 「臨床製剤を用いた臨床研究の進め方ー観察研究から臨床試験実施までー」, 2018年3月17日 (土), 星薬科大学, 参加者約30名

・第1回 臨床製剤セミナー 「臨床製剤を用いた臨床研究の進め方ー観察研究から臨床試験実施までー百賢二」, 2018年3月17日 (土), 星薬科大学, 参加者<約30名>

- **【粉体プロセス FG】**

プロセスの高効率化, 製剤の高機能化, 高品質化を実現するための理論, 技術, 最近の技術動向などについて議論を深め, 製剤技術の発展に貢献することを目的とし, 以下のとおりで年会でのラウンドテーブルおよび製剤処方・プロセスの最適化検討 FG, 物性 FG と合同で 3FG 合宿講演会を開催した.

・日本薬剤学会第32年会 ラウンドテーブル: 物性 FG の項参照

「原薬と添加剤の複合体は, 原薬? 製剤?ー原薬と製剤の融合技術とレギュレーションー」2017年5月12日 大宮ソニックシティ

・粉体プロセス/物性/製剤処方・プロセスの最適化検討 3FG 合同合宿討論会: 製剤処方・プロセスの最適化検討 FG の項参照

- **【前臨床開発 FG】**

前臨床開発に関わる諸問題, 例えば原薬形態の効率的な決定法, 加速試験が困難な製剤の判断法, 安全性試験の製剤設計などをテーマとして, 学術内容にタイムラインやリスクマネジメントのビジネス視点を含めた議論を行い, 書籍としての情報発信準備をした.

・合同合宿討論会 (経口吸収 FG と共同) 12月7-8日 KKR 熱海, 参加者38名.

・上記合宿討論会の講演内容を中心としてまとめた書籍発刊準備中.

- **【モデリング&シミュレーション FG】**

薬剤学領域研究を効果的効率的に推進できるモデリング&シミュレーション技術の動向を調査し、HPを通じて技術の普及を目指した活動を行った。

2 製剤設計における種差の問題検討会（略称：製剤種差検討会）事業

2016年度より開始された製剤種差検討会は登録団体数が2018年3月末時点で54に達し、学会内外での認知度も高まっている。2017年度は3回の事例報告会（オブザーバーとして国立衛研、PMDA、東大医学部女性外科も参加；参加者数も毎回着実に増えている）を開催したほか、種々の広報・啓蒙活動（学会誌投稿4報、学会・講演会等6報）を実施した。

[事例報告会]

- ・第3回事例報告会（2017年6月30日、東大薬学部講堂）：参加者74名
- ・第4回事例報告会（2017年11月2日、キャンパスプラザ京都）：参加者82名
- ・第5回事例報告会（2018年2月23日、帝京大学板橋キャンパス）：参加者93名

[学会誌投稿]

- ・薬剤学, 77(3), 157-159 (2017) にレポート (&グラビア) 掲載
- ・薬剤学, 77(6), 310-312 (2017) にレポート (&グラビア) 掲載
- ・薬剤学, 78(2), 94-96 (2018) にレポート (&グラビア) 掲載
- ・Drug Delivery System, 第32巻5号 (2017) で特集：製剤設計における動物種差の問題

[学会・講演会活動]

- ・第54回薬剤学懇談会研究討論会（2017年6月、熱海）で活動紹介
- ・ILS Liposome Advances/ Liposome Research Days（2017年9月、ギリシャ）で活動紹介
- ・日本薬剤学会第7回DDS製剤臨床応用FG合宿討論会（2017年10月、箱根）で活動紹介
- ・日本薬剤学会前臨床開発FG/経口吸収FG合同合宿討論会（2017年12月、熱海）で活動紹介
- ・日本薬学会関東支部第42回学術講演会（2017年12月、渋谷）で活動紹介
- ・第38回日本臨床薬理学会学術総会シンポジウム（2017年12月、横浜）で活動紹介

**制度改革担当理事**

1 制度改革担当事業（制度改革委員会）

- 公益社団法人として、2018年度からの主体的運用を目指して持続性のある制度に整備する。

- 1.1 本学会の代議員制度の2018年度からの導入を目標に、新制度を策定し、2017年5月総会にて承認を得た。また、2018年度からの主体的な学会事務運営を目指し、2017年度は学会支援機構の委託業務の内、経理と庶務業務を学会事務局に移管するために、担当する専任人材を採用し経理業務の一部を税理士事務所へ委託しながら事務機能を整備した。

**年会長**

1 年会事業

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行った。会員の口頭またはポスターによる研究発表の他、下記の各種講演・シンポジウム、ラウンドテーブルセッション、ランチョンセミナー、企業展示会等の多種多様なプログラムを設けたほか、若手の連携を意図した交流会を行った。

1.1 第32年会の開催

メインテーマ「医療価値を創造する製剤技術の世界へ」

特別講演：1演題、招待講演：2演題

各種受賞者講演

学術シンポジウム：6セッション

特別企画シンポジウム、薬学教育シンポジウム、医薬品包装シンポジウム、各1セッション

ラウンドテーブルセッション：5セッション

参加者数：1,200名、2017年5月11-13日 大宮ソニックシティ

1.2 第33年会組織委員会の開催：2016年3月27日、5月19日、2017年3月26日

**学会運営**

1 理事会

学会の業務執行の決定、理事の職務執行の監督等を行う機関であり、法人のガバナンスを担う中心的な機能を果たすべく、以下のとおり理事会を開催した。

第1回理事会 2017年4月18日

第2回理事会	2017年5月10日
第3回理事会	2017年9月25日
第4回理事会	2018年1月11日

## 2 評議員会および総会

正会員で構成される学会の最高の決議機関である総会、また、この総会に上程される全ての議案について審議を行う機関である評議員会を以下のとおり開催した。

今年度の評議員会および定時総会では「代議員制の導入」について審議を行い、2018年度から従来の評議員に代えて代議員を選任すること、またこの代議員総会をもって定時総会に代えることが決定された。

2.1 評議員会	2017年5月12日	大宮ソニックシティ 国際会議室
2.2 定時総会	2017年5月12日	大宮ソニックシティ 小ホール

以上

なお、2017年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

## (参考)事業別収支(損益ベース)一覧

2017年4月1日から2018年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

事業名	経常収益計	経常費用計	当期計上増減額	備考
公益目的事業合計				
APSTJ2025推進事業	-	-	-	
国際標準医薬分業事業	-	15,360	-15,360	
学会賞等表彰事業	642,158	2,554,347	-1,912,189	
創剤開発・研究賞表彰事業	713,138	1,338,487	-625,349	
広報委員会事業	-	670,253	-670,253	
医薬品の包装と情報分科会事業	-	142,000	-142,000	
教育分科会事業	-	-	-	
学生シンポジウム事業	-	-	-	
国際学会等協力事業	-	1,471,674	-1,471,674	
英語セミナー事業	60,000	738,271	-678,271	
機関紙出版事業	751,320	4,214,157	-3,462,837	
「薬剤学」編集委員会事業	-	165,318	-165,318	
投稿論文審査委員会事業	-	-	-	
出版委員会事業	-	13,540	-13,540	
製剤技術伝承講習会事業	9,525,000	6,541,726	2,983,274	
製剤技師認定事業	2,130,108	994,252	1,135,856	
製剤セミナー事業	8,951,000	8,745,867	205,133	
FG統括委員会事業	5,007,000	4,782,157	224,843	
公開市民講演会事業	-	155,997	-155,997	
製剤種差検討会事業	1,025,500	918,178	107,322	
制度改革事業	-	448,085	-448,085	
年会事業	42,168,196	32,316,356	9,851,840	
共通	12,192,000	7,069,901	5,122,099	
小計	83,165,420	73,295,926	9,869,494	
法人会計	12,616,587	14,037,219	-1,420,632	
合計	95,782,007	87,333,145	8,448,862	

# 貸借対照表

2018年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	30,696,021	29,745,977	950,044
未収金	255,840	251,088	4,752
前払費用	1,319,424	1,781,344	△ 461,920
流動資産合計	32,271,285	31,778,409	492,876
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2) 特定資産			
タケルアヤヒグチ記念基金	35,000,000	35,000,000	0
創剤開発・研究賞積立金	786,862	625,349	161,513
学術集会基金	7,900,000	7,900,000	0
公益事業基金	9,869,494	0	9,869,494
特定資産合計	53,556,356	43,525,349	10,031,007
(3) その他固定資産			
什器備品		2,103	△ 2,103
ソフトウェア	654,405	324,000	330,405
敷金	100,000	100,000	0
その他固定資産合計	754,405	426,103	328,302
固定資産合計	74,310,761	63,951,452	10,359,309
資産合計	106,582,046	95,729,861	10,852,185
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	4,553,281	2,889,088	1,664,193
前受会費	18,845,000	19,029,000	△ 184,000
預り金	106,732	20,464	86,268
仮受金	40,000	40,000	0
未払消費税等	600,000	550,000	50,000
流動負債合計	24,145,013	22,528,552	1,616,461
負債合計	24,145,013	22,528,552	1,616,461
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	20,786,862	20,000,000	786,862
(うち基本財産への充当額)	(20,000,000)	(20,000,000)	(0)
(うち特定財産への充当額)	(786,862)	(0)	(786,862)
2. 一般正味財産	61,650,171	53,201,309	8,448,862
(うち特定財産への充当額)	(52,769,494)	(43,325,156)	(9,444,338)
正味財産合計	82,437,033	73,201,309	9,235,724
負債及び正味財産合計	106,582,046	95,729,861	10,852,185

# 正味財産増減計算書

2017年4月1日から2018年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	94,773	94,257	516
特定資産運用益	142,158	141,386	772
受取会費	24,384,000	24,146,000	238,000
正会員受取会費	13,094,000	13,021,000	73,000
学生会員受取会費	2,010,000	2,005,000	5,000
賛助会員受取会費	9,280,000	9,120,000	160,000
事業収益	70,265,702	68,502,209	1,763,493
学術集会・委員会等事業収益	66,171,136	62,845,400	3,325,736
参加費	35,115,000	33,996,000	1,119,000
助成金・補助金	3,175,000	2,004,000	1,171,000
寄付金・協賛金	6,548,000	4,222,600	2,325,400
セミナー協賛金	3,888,000	2,592,000	1,296,000
講演要旨集等販売料	0	4,000	△ 4,000
広告料	1,674,000	1,166,400	507,600
出展料	15,771,136	18,860,400	△ 3,089,264
学会誌等出版事業収益	751,320	1,646,809	△ 895,489
購読料	412,906	1,255,047	△ 842,141
投稿料・別刷料	192,491	195,480	△ 2,989
許諾料・使用料	145,923	196,282	△ 50,359
学会賞等表彰事業	1,213,138	2,300,000	△ 1,086,862
助成金・補助金	500,000	800,000	△ 300,000
寄付金・協賛金	0	1,500,000	△ 1,500,000
指定正味財産からの振替	713,138	0	713,138
製剤技師認定事業	2,130,108	1,710,000	420,108
受験料	1,510,108	1,190,000	320,108
認定料	620,000	520,000	100,000
雑収益	895,374	409,751	485,623
受取利息	166	1,093	△ 927
雑収益	895,208	408,658	486,550
経常収益計	95,782,007	93,293,603	2,488,404
(2) 経常費用			
事業費	73,295,926	81,913,696	△ 8,617,770
給料手当	2,111,180	975,750	1,135,430
臨時雇賃金	2,156,720	463,224	1,693,496
会場費	18,708,528	14,157,618	4,550,910
旅費交通費	3,782,442	4,091,754	△ 309,312
会議費	2,639,531	2,696,717	△ 57,186
関連行事費	9,612,865	7,727,101	1,885,764
賞状・賞牌・副賞費	4,130,517	3,823,600	306,917
通信運搬費	654,909	1,694,342	△ 1,039,433
ウェブサイト管	2,879,670	2,201,710	677,960
消耗品費	177,101	1,133,063	△ 955,962
印刷製本費	6,752,799	10,240,613	△ 3,487,814
賃借料	1,088,019	10,340,457	△ 9,252,438
保管料	486,000	0	486,000
諸謝金	4,971,192	4,668,767	302,425
支払負担金	1,187,744	1,618,523	△ 430,779
業務委託費	9,442,025	15,693,969	△ 6,251,944
税理士報酬	1,618,133	0	1,618,133
雑費	896,551	386,488	510,063
管理費	14,037,219	10,736,122	3,301,097
給料手当	2,111,179	975,750	1,135,429
旅費交通費	2,394,163	1,593,275	800,888
会議費	969,642	1,181,246	△ 211,604
通信運搬費	1,004,972	1,068,940	△ 63,968
減価償却費	13,194	2,097	11,097
消耗品費	466,296	122,935	343,361
印刷製本費	284,470	459,748	△ 175,278
賃借料	473,769	298,080	175,689
租税公課	564,600	550,000	14,600
業務委託費	2,818,691	3,126,902	△ 308,211
税理士報酬	1,618,133	0	1,618,133
公認会計士報酬	810,000	928,210	△ 118,210
雑費	508,110	428,939	79,171
経常費用計	87,333,145	92,649,818	△ 5,316,673
当期経常増減額	8,448,862	643,785	7,805,077
当期一般正味財産増減額	8,448,862	643,785	7,805,077
一般正味財産期首残高	53,201,309	52,557,524	643,785
一般正味財産期末残高	61,650,171	53,201,309	8,448,862
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
受取寄付金	1,500,000	0	1,500,000
一般正味財産への振替額	△ 713,138	0	△ 713,138
創刊開発・研究賞基金	△ 713,138	0	△ 713,138
当期指定正味財産増減額	786,862	0	786,862
指定正味財産期首残高	20,000,000	20,000,000	0
指定正味財産期末残高	20,786,862	20,000,000	786,862
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>82,437,033</b>	<b>73,201,309</b>	<b>9,235,724</b>

# 財産目録

2018年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>			
現金預金			30,696,021
現金	現金	事務局手許現金	89,610
預金	普通預金		9,395,502
	三菱UFJ/江戸川橋	運転資金として	3,027,729
	三菱UFJ/江戸川橋(セミナー)	同上	4,871,127
	三住信/本店	同上	1,425,806
	みずほ/根津	同上	70,840
	郵便/会費	同上	13,801,413
	郵便/講習会	同上	6,682,274
	郵便/製剤セミナー	同上	727,222
未収金	パナー広告掲載未収額他	公益目的事業及び法人会計への未収額	255,840
前払費用	加盟団体年会費	公益目的事業の前払分	1,319,424
<b>流動資産合計</b>			<b>32,271,285</b>
<b>(固定資産)</b>			
<b>基本財産</b>			
定期預金			20,000,000
	(定期)三住信/本店	公益目的事業に必要なその他の活動の用に供する財産であり、運用益を管理費に使用	20,000,000
<b>特定資産</b>			
ケルアヤヒグチ記念基金			53,556,356
	(定期)三住信/本店	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業(ヒグチ記念各賞表彰事業)に使用	30,000,000
	郵便/講習会	同上	5,000,000
創剤開発・研究賞積立金			786,862
	(普通)三住信/本店	公益目的事業(創剤開発・研究賞表彰事業)に使用	786,862
学術集会基金			7,900,000
	郵便/会費	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業(年会事業)に使用	7,900,000
公益事業基金			9,869,494
	郵便/会費	公益目的事業に使用	9,869,494
<b>その他固定資産</b>			
ソフトウェア	公益法人会計ソフト	法人の管理運営に供している資産	754,405
敷金	事務所借室学会センタービル	法人の管理運営に供している資産	654,405
			100,000
<b>固定資産合計</b>			<b>74,310,761</b>
<b>資産合計</b>			<b>106,582,046</b>
<b>(流動負債)</b>			
未払金	学会誌編集費、事務委託費等	公益目的事業及び法人運営の未払分	4,553,281
前受会費	次年度以降会費	公益目的事業及び法人運営の前受分	18,845,000
預り金	源泉所得税	公益目的事業及び法人運営の未払分	106,732
仮受金	郵便/会費、三東UFJ/江戸川橋等	不明入金等の仮受分	40,000
未払消費税等	未払消費税等	当年度納付額概算計上額	600,000
<b>流動負債合計</b>			<b>24,145,013</b>
<b>負債合計</b>			<b>24,145,013</b>
<b>正味財産</b>			<b>82,437,033</b>

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却  
 固定資産の減価償却は定額法によっている。  
 (2) 消費税等の会計処理  
 消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
タカアヤヒ記念基金	35,000,000	0	0	35,000,000
創刊開発・研究賞積立金	625,349	1,500,000	1,338,487	786,862
学術集金基金	7,900,000	0	0	7,900,000
公益事業基金	0	9,869,494	0	9,869,494
小計	43,525,349	11,369,494	1,338,487	53,556,356
合計	63,525,349	11,369,494	1,338,487	73,556,356

### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	20,000,000	(20,000,000)	(0)	(0)
小計	20,000,000	(20,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
タカアヤヒ記念基金	35,000,000	(0)	(35,000,000)	(0)
創刊開発・研究賞積立金	786,862	(786,862)	(0)	(0)
学術集金基金	7,900,000	(0)	(7,900,000)	(0)
公益事業基金	9,869,494	(0)	(9,869,494)	(0)
小計	(53,556,356)	(786,862)	(52,769,494)	(0)
合計	73,556,356	(20,786,862)	(52,769,494)	(0)

### 4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウェア	665,496	11,091	654,405

### 5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上
助成金						
Award Grant	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	500,000	500,000	0	注)
補助金	(公財)中富健康科学振興財団		1,000,000	1,000,000		注)
補助金	(公財)永井記念薬学国際交流財団		150,000	150,000		注)
補助金	埼玉県		420,000	420,000		注)
補助金	さいたま市		644,000	644,000		注)
助成金	兵庫県淡路市	0	961,000	961,000	0	注)
合計		0	3,675,000	3,675,000	0	

※注)いずれも当該年度内に目的たる支出が完了するため、貸借対照表上の記載はない。

### 6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

内 容	金 額
経常収益への振替額	
創刊開発・研究賞積立金	713,138
	713,138

## 附属明細書

### 1. 基本財産および特定資産の明細

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意点に従い、財務諸表の注記3および4に記載しているため、内容の記載を省略している。

### 2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
なし	0	0	0	0	0

以上

# 監査報告書

2018年5月14日

公益社団法人日本薬剤学会  
会長 今井 輝子 殿

馬目公認会計士事務所

公認会計士

馬目利昭 

## 1. 監査の方法と概要

私は、公益社団法人日本薬剤学会の2017年度（2017年4月1日から2018年3月31日まで）の財務諸表等、すなわち、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録についての監査を行いました。

監査に当たって、私は、試査を基礎とし、通帳、請求書、領収書等の関係証憑と会計帳簿間の照合、及び財務諸表等が会計帳簿に基づき適正に作成されているか検討を行いました。

## 2. 監査意見

監査の結果、私は、上記の財務諸表等が、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、公益社団法人日本薬剤学会の2017年度末日現在の財政状態及び同事業年度の正味財産増減を重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

# 監査報告書

公益社団法人 日本薬剤学会  
会長 今井輝子 殿

2018年5月15日

公益社団法人 日本薬剤学会

監事

伊吹 リン太 

監事

杉林 隆次 

私たちは、2017年4月1日から2018年3月31日までの2017年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

## 1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

## 2 監査意見

- (1) 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、財務諸表に対する注記及び附属明細書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書及び附則明細書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上